

DX+

SASE(ゼロトラスト)を
実現する中核となる
インターネットゲートウェイ



Theme



Use Case



Reference
Architecture





テーマ / Theme

ビジネスを加速させるための取り組みをご紹介

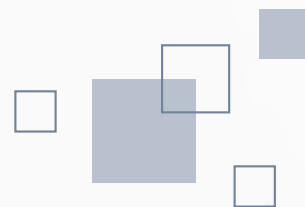
SASE(ゼロトラスト)を 実現する中核となる インターネットゲートウェイ

コスト削減

セキュリティ強化

クラウド/サーバー

ネットワーク



課題 / Issue

通信量の増加でインターネットゲートウェイの帯域、セキュリティに不安がある

Microsoft 365、Google WorkspaceといったSaaSの利用が拡大し、AWS、AzureといったIaaSへの基幹系システムの移行が加速するなど、昨今のビジネスシーンではクラウド利用が増加傾向にある。これに伴い、社内から外部サービスへ接続する機会は増えている。さらにコロナ禍によりテレワーク、リモートワークが拡大したことで、逆に社外から社内VPNへのアクセス数も伸び続ける一方だ。

このような状況において、インターネットと社内VPN、いわゆる社外と社内を安全につなぐ「強固な門」となる従来型のインターネットゲートウェイ (IGW) に、さまざまな課題が顕在化してい

る。社内外からの通信量が急増したことでIGWがボトルネックになり通信が遅延し、業務に支障が出る。あるいはインターネット接続が増えたことで、従来のセキュリティ対策に不安を抱える企業も多い。

そもそもオンプレミスで構築された一般的なIGWでは、トラフィックの急増に対応することは難しい。DR、BCP対策としてバックアップのIGWを構築するケースもあるが、あくまで非常用のため通常時は活用できないという落とし穴もある。このような固定された集約型のIGW構成を改善することは、喫緊の課題だ。



概要 / Overview

分散型のIGW構成でトラフィックの課題を解決

1つの出入口しかない集約型のIGWでは、クラウド利用、テレワーク拡大といったニーズに対応することは困難だ。これからは、従来のオンプレミスで運用していたIGWをクラウド環境へ移行し、リージョンごとに複数の出入口を併用する分散型のIGW構成に切り替えることが解決の早道だと言える。

クラウド上で提供される分散型IGWサービスを活用するケースもある。このケースでは、相互/中継接続基盤と併用することで、複数リージョンにIGWを自在に配置。一極集中だったトラフィックを分散させるという特長を持っている。東京と大阪といった距離を置いた分散配置を行うことで、DR、BCPの要望に応える高可用性も確保できる。しかも、双方のIGWは常時稼働しているため、一方が故障した際には自動的に切り替わるようになっており、これまでのような非常用のバックアップIGWを構築

する必要はない。

さらに、IGWごとにファイアウォール、IPS、URLフィルタリング、サンドボックスといったUTM機能が組み込まれているため、クラウド、インターネット利用を想定した十分なセキュリティ対策を講じることもできる。つまり通信の安定性と安全性の課題を解決する、一石二鳥のサービスと言えるだろう。

現在利用中のVPNが対応サービスであることが前提になるが、オンデマンドでの一元設定も可能だ。IGWの即時開通はもちろん、トラフィック量の変動に合わせた拡張も容易に行える。しかも帯域課金で提供されるため、ユーザー数課金に比べてコスト最適化が図れることも大きなポイントだ。



ユースケース / Use Case

テーマを実現による業務の変化・メリットをご紹介

Use Case 01

トラフィック予想が困難なSaaS運用のコスト最適化

Microsoft 365 の Teams などを導入したものの、どこまでエンドユーザーに使われるのかトラフィック量が予測できないケースは多い。こうしたケースでは各 SaaS 会社が提供する公式計算ツールでおおよその帯域を割り出し、いったん分散型 IGW を導入して利用を開始するのがセオリーだ。その後、利用されたトラフィックに応じて IGW を調整することで運用コストの最適化が図れる。

Use Case 02

既存IGWを活かしたSaaS専用IGWの新設

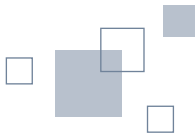
オンプレミスの IGW を利用する場合、たとえば SaaS の利用でトラフィックが逼迫していても契約期間に縛られてリプレースがままならないことがある。こうしたケースでは既存の IGW を活かしたまま、別に分散型 IGW を導入すればいい。既存 IGW で一般的な通信を流し、新設の IGW SaaS のトラフィックのみを振り分けて流せる構成にすることで解決できる。

Use Case 03

ユーザー数見合いのコスト高を解消

朝の出勤、夕方の退勤時に利用する SaaS 型の勤怠管理サービスのみを導入している場合、ユーザー数見合いの課金体系の IGW 運用は割高になることが多い。このような通信量が少ない割にコスト高になるケースは、帯域課金の分散型 IGW に置き換えることで解決できる。さらに IGW の導入が進まないといった運用コストが障壁となっているケースでも有効だ。





リファレンスアーキテクチャ / Reference Architecture

テーマを実現するシステム構成をご紹介

アーキテクチャ上のポイント

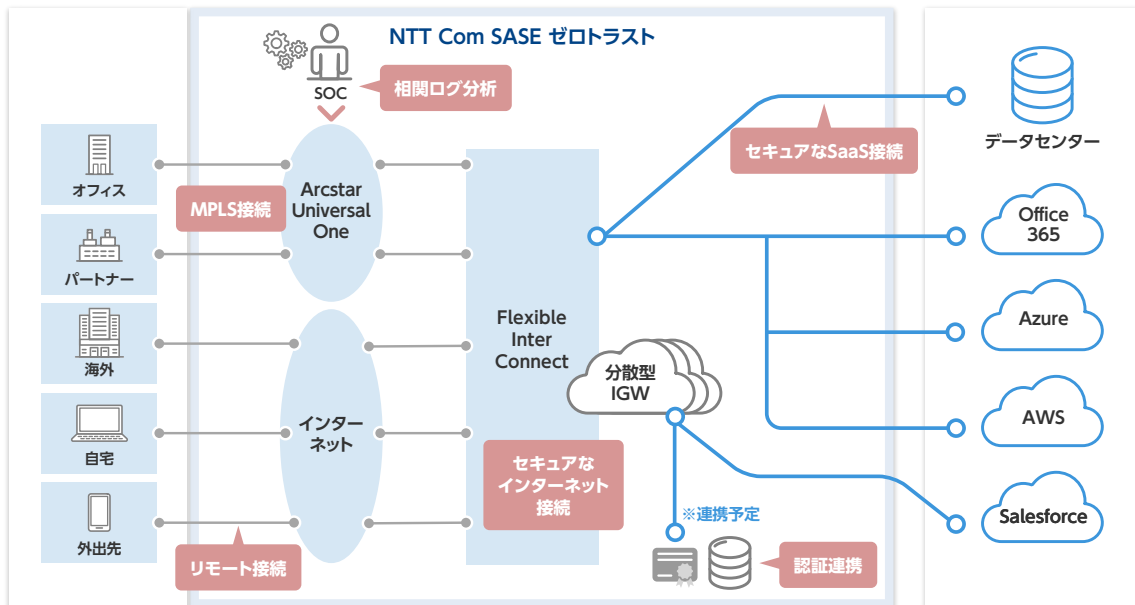
Point

本構成のポイント

- インターネット接続、VPN 接続を併用したハイブリッド構成でも IGW 運用を実現
- 関連ログ分析、認証連携によりセキュリティ対策の強化も可能（予定）
- 自宅、外出先からセキュアにアクセスできるリモート接続サービスも提供
- 本 IGW は、NTTCom の SASE（ゼロトラスト）を実現するコンポーネントのひとつ

導入効果

- トラフィック増大による通信遅延の解消
- UTM 機能の個別実装による安全性の強化
- IGW 運用コストの削減、最適化



詳しくはこちら





本件の詳細につきましては、
お気軽にNTTコミュニケーションズにお問い合わせください。

[お問い合わせはこちら](#)